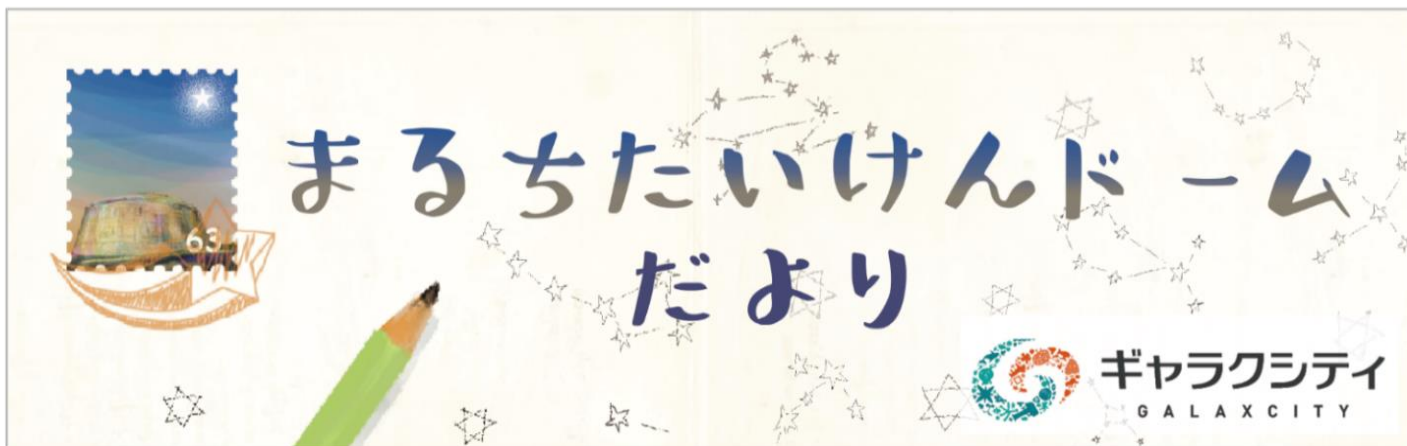




せいだん プレセペ星団

かに座は黄道12星座の1つとして有名です。しかし、明るい星が無いのでちゃんと意識して見たことのある人が少ない星座です。プラネタリウムでも解説しないことも多いのですが、かにの甲羅の真ん中にある散開星団、M44 プレセペ星団は空の暗いところでは肉眼でもボーっと見えるので、たまに紹介することがあります。

この星団は望遠鏡のない時代には、星雲として認識され、近くにあるかに座ガンマ星とデルタ星をそれぞれ「北のロバ」、「南のロバ」と呼んだことから、飼葉桶（プレセペ Praesepe）といわれました。1610年ガリレオは、望遠鏡ではじめてこの星雲を観察し、実は30個以上の星が密集しているところ（散開星団）だということを発見しました。そこは、まるで「蜂の巣」のようだということで、「Beehive Cluster」（蜂の巣星団）とも呼ばれます。アメリカやイギリスの人たちはこの呼び名が好きなようです。

プレセペ星団は地球から580光年かなたにあります。ヒアデス星団（160光年）に比べて遠くにあるため、星の運動は調べにくいのですが、2つの星団は同じような速さ（秒速約30km）で同じような方向へ移動しているようです。星の性質や年齢も似ているようです。プレアデス星団（おうし座、距離430光年）に比べると、質量の小さな星が多く、見た目は地味な印象です。最近、この星団の中にも惑星を持つ星が見つかっています。星が軽いということは、寿命が長いということです。もしも惑星に生命が発生した場合、進化に十分な時間がかけられるということです。何だか、期待が高まりますね。



プレセペ星団 M44 の姿。Media Globe SE2019 でドームに投影実験したものを撮影。およそ100個の星が写っています。